

かいたく

教会のない地域に教会を 刈り入れ場に働き人を



聖書が命じる「宣教」には、みことばを「宣」べ伝える伝道と、救われた人を「教」える教育とがあります。アンテオケ教会設立時の記事を見ると(使徒十一章一九、二六節)それがよくわかります。「主イエスのことを宣べ伝えた(二〇節)。大ぜいの人が信じて(二一節)」、「大ぜいの人たちを教えた(二六節)」。

伝道と教育は表裏一体ですが教育の比重が大きいことがわかります。アンテオケにおいては「三年の間、彼らは教会に集まり、大ぜいの人たちを教えた(二六節)」としっかり教育しています。更には「常に主にとどまっているようにと励ました(二三節)」とあり、「励ました」は「勧めた」とも訳します。教えるも勧めるも主と主のみことばにとどまらせることを目的とした教育的訓練です。もし教育を怠るなら主から離れて異教習慣に戻ってしまうでしょう。ですから、エルサレムから派遣されたバルナバは、およそ200キロも離れたタルソにいるサウロを協力者として連れて来るほど教育に力を入れました。後にパウロは手紙の中で「教える人であれば教え、勧めをする人であれば勧め：」(ローマ二章七、八節)と教会になくてはならない賜物として教育の大切さを教えています。コロナ禍にあって従来の伝道が出来ないのであれば尚更、宣教の一片である教育から見直すことを私自身教えられています。「みなが心を堅く保って、常に主にとどまっている」ために。

JBBF国内宣教委員会委員長・井口拓志

かいたく 2022年6月発行 第86号 発行元JBBF国内宣教委員会 長野県北佐久郡軽井沢町大字長倉4696-27 編集責任井口拓志 デザイン: 疋田 健次



この度、2022国内宣教カンファレンスを開催いたします。昨年、一昨年とコロナ禍にあってオンラインでの開催でしたが、今回対面での開催を企画しています。その目的は福音宣教を志す方々との霊的交わりです。参加対象として、伝道者の先生方に加え、献身を祈り、宣教に重荷のある兄弟姉妹もご参加頂きたいと願っています。このために、感染防止にご協力頂くこととなりますので、よろしくお願いいたします。尚、集会のライブ配信はありません。後日録画したものを配信いたします。

- 日時:** 2022年9月23日(金・祝)、24日(土)
- テーマ:** 「この福音のために」～なんと美しいことか、良い知らせを伝える人たちの足は～
- 中心聖句:** テモテへの手紙 第二 2章8、9節
- 説教者:** トニー・エバンズ師(すずらん聖書バプテスト教会)
- 会場:** 日本バプテスト聖書神学校チャペル
(参加人数に応じ、グレースキャンプ場をサテライト会場とする場合があります)
- 参加費:** 大人2,000円(高校生以上) ※高校生以下の参加費は無料
- 宿泊:** 周辺ビジネスホテル/グレースキャンプ場/一部神学校 ※宿泊費・食費は各自
- 補助:** ①ビジネスホテル利用者に3,000円宿泊補助
②交通費補助 上限15,000円(申告された方への補助)
- 申込:** 国内宣教委員白井までメールにてご連絡ください shirai-k@rd5.so-net.ne.jp
- 締切:** 8月23日(火)

【感染防止対策】

- (1) 神学校内は手消毒、不織布マスク着用、一定の距離を取り、集会時に窓を常時解放します。
- (2) 参加人数により、グレースキャンプ場をサテライト会場とします(モニター設置)。
- (3) 集会場所に二酸化炭素測定器、換気効果を上げるサーキュレータを設置します。
- (4) 23日(金)夕食、24日(土)朝食は神学校或いはグレースキャンプ場での用意はありません。各自おとりください。
- (5) 宿泊は原則一部屋にお一人或いは一家族です。
- (6) 体調不良の方は参加をご遠慮ください。
- (7) 感染状況によりスケジュールの変更または中止になる場合があります。

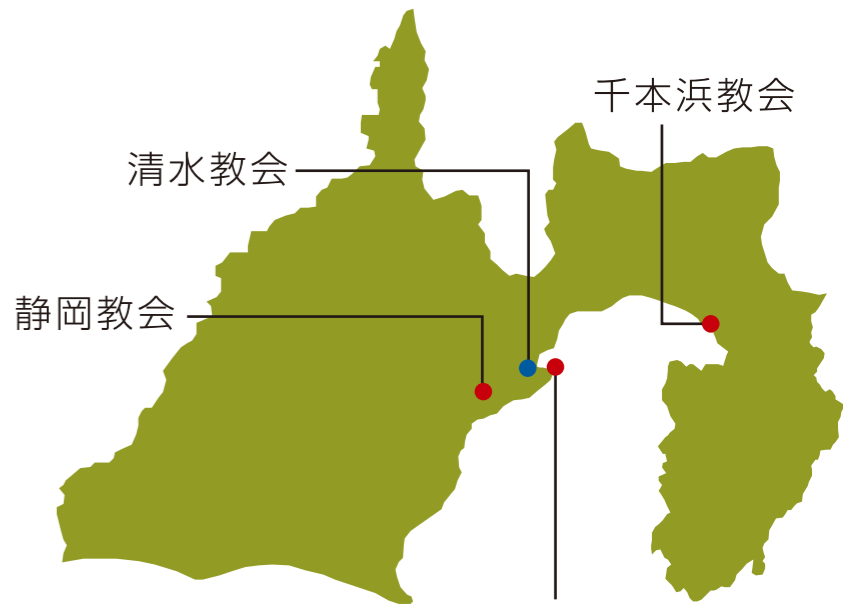
伝道者補助を開始します!

国内宣教委員会では国内宣教に従事しておられる伝道者家族をサポートするため、今年度より下記のとおり伝道者補助を開始することになりました。この必要のためにご協力くださる方は左記の郵便口座まで献金をお願いいたします。

- 金額:** 1ヶ月 5,000円 ※2ヶ月ごとに10,000円を送金
- 対象:** 国内の開拓伝道所の牧師・伝道師および独立教会の牧師・伝道者で申請のあった先生
- 申請方法:** 国内宣教委員白井までメールにてご連絡ください shirai-k@rd5.so-net.ne.jp
- 開始時期:** 今年度4月分より開始。申請があり次第、4月分よりさかのぼって送金します

献金振込先(郵便振込)
00140・2・654375
JBBF国内宣教委員会

静岡地区教会訪問記



カルバリの丘教会

日程で、静岡県にある千本浜教会、カルバリの丘教会、静岡教会の三教会を訪問させていただきましたことになりました。ここに訪問時の様子を記します。

①千本浜聖書バプテスト教会

私たちがはじめに向かったのは清水教会の伝道所である千本浜教会です。教会に到着すると、道下義嗣先生と直子夫人が私たちを迎えてくださいました。

清水教会では以前、三島市と沼津市の間に位置する長泉町において開拓伝道が進められていましたが、2016年に沼津市にある三階建ての中古物件を購入。改修工事を行い、新たに千本浜教会としての開拓伝道が始まりました（かいたく70号に千本浜教会の開所時の証しが掲載されています。国内宣教委員会のホーム



ページでご覧いただけます。http://jbbfhomeimission.jp.org/。この建物は以前、地域の鍼灸院だったそうです。改修工事を経て、爽やかな青緑色の建物に生まれ変わりました。玄関付近のタイル張りの部分を見ると、かつて鍼灸院であった頃の名残をわずかに感じさせます。現在は一階部分を礼拝堂、二階部分を



はじめに

一昨年から始まったコロナ禍以降国内宣教委員会ではリモート会議ばかりが続いていましたが、「そろそろ顔を合わせて交わりを持ちたいですね」という声が上がることが多くなりました。そこで委員の一人である浜田先生が教会されている清水教会で会議を行うことになったのですが、「せっかくの機会なので近隣の諸教会を訪問しませんか？」という声があり、4月18日～19日の二日間の



ると千本浜教会の賛美動画を視聴できます。一人でも多くの人に福音を伝えたいという先生の熱い思いが伝わってきました。

目下の悩みは老朽化の進んだ建物の修繕だそうです。水漏れや雨漏り



が発生している箇所があり、修繕が必要とのこと。限られた予算のなかで、いかに建物をメンテナンスしつつ、維持していくか。主からの知恵を求めておられました。さまざまな不安は尽きないものの、ここに主の教会が建てられていることに感謝し主が教会を成長させてくださることに期待して、これからも地域伝道に励んでいきたいとのことでした。



道をしていきたいと義嗣先生。教会の近隣は高齢化が進んでおり、伝道の難しさを感じる人が多いもの。チラシ配布をはじめとする地道な伝道活動を継続されているとのこと。最近ではインターネットでブログや賛美動画を配信するなど、四苦八苦しながらも新しい取り組みを始めておられることを伺いました（Youtubeで「歩みの遅いカメラさん」で検索す

②カルバリの丘バプテスト教会

千本浜教会に続いて、私たちはカルバリの丘教会に向かいました。カルバリの丘教会は藤沢幸人先生が牧会されている教会で、清水教会から車で30分ほどの距離にあります。清水教会と同じ区にあるとは言え、教会のある町は三保半島の海に囲まれたような場所にあるため、人の流れはまったく異なるそうです。実際に行ってみると、海の近くの水産会社が隣接する場所に教会が建っていました。地元の方との距離感の近さ、つながりを感じます。教会の建物は白を基調としており、光がよく入る明るい雰囲気の教会です。以前、ナ



日曜学校、三階部分を住居スペースとして利用していただけるそうです。義嗣先生に現在の教会の様子を伺いました。千本浜教会では毎年、年度テーマを決め、そのテーマに沿って御言葉の取り次ぎがなされているそうです。今年のテーマは「神の時を待ちわび、生き、動く」。主の御言葉の力に押し出されて、力強く伝

ースリーとして利用されていた場所も礼拝堂に加えられたとのこと、とても広々としていました。

三保半島には水産関係の会社が多いとのことですが、寒く、汚れる厳しい仕事のため、外国人労働者の方々にとっては貴重な働き口となっているそうです。なかでもアフリカ系の方が多く、教会にもアフリカ人クリスチャンが多いとお聞きしました。そのため礼拝説教はバイリンガルで行われているとのこと。藤沢先生が日本語と英語の説教原稿を用意し、フィリピン人の姉妹が英語の原稿を読み上げ、日本語と英語が交互に語られるようにしておられるそうです。ただ、英語は姉妹が読み

上げる形式のため、先生が強調したい点や、会衆に合わせてアレンジした部分などが上手く伝わらず、日本語の説教を聴く聴衆との間に差が出てしまうジレンマに悩んでおられるとのことでした。そのようななかでも、特にアフリカ人の兄弟方は熱心で、毎週忠実に礼拝に集われており先生や日本人の兄弟方にとっても大きな励みになっていくとのこと。日本人と外国人のどちらかに合わせた教会ではなく、日本人も外国人も共に集える教会として成長していくことを先生は願っておられ、そのために教会はどうあるべきかを考えながら教会形成に取り組んでおられるとのことでした。

また、藤沢先生は後継者のために



も祈っておられ、伝道しつつ、継承の備えをするご苦労をお伺いしました。特に多くの外国人が日本で働かれるなかで、聖書的な教会、外国人も集える教会としてカルバリの丘教会が重要な存在になっているのと同じ時に、他教派の背景を持つておられる方々に聖書的事実の重要性をどのように伝え、また相互に理解し合うべきかに悩みながら、伝道牧会に取り組んでおられるとのことでした。そのような意味においても、コロナ禍で交わりが乏しいことによるご苦労が現れていることを伺いました。

③ 静岡バイブルバプテスト教会

次に向かったのは、カルバリの丘教会から西に16km、車で40分ほど走ったところにある静岡教会です。静岡教会はフェロシップのなかでも長い歴史のある教会で、昨年アメリカに帰国されたラージャス先生によって開拓が始められ、足立紀雄先生、



茂先生が働きを引き継いで来られました。当日は足立委子先生と一人の姉妹が私たちを迎えてくださいました。会堂に入ると床が大変きれいで教会全体が明るく、輝いて見えました。委子先生を始め、静岡教会の兄



姉方が会堂を主の宮として心から尊び、大切にしておられる様子がひしひしと伝わってきました。

足立茂先生が天に召されて以来、静岡教会にはさまざまな教会の先生方が説教応援に駆けつけてくださっているそうです。しかし、そこにもコロナ禍の影響があり、思いがあらつつも来られなくなった先生もおられるとのことでした。そのようななかでも、説教テープを送ってください



る先生や毎月来てくださる先生がいることを委子先生は感謝しておられました。先生方が来られない時は、1995年頃の茂先生の説教テープを礼拝で聴いておられるそうです。今聴いても教えられることが多く、豊かな説教だと語ってくださいました。今も教会員の多くが祈禱会に集っておられ、教会全体が本当に主のご主権と御言葉そのものに信頼し、立っておられる力強さが伝わってき



ました。委子先生も年齢や抱えておられる困難をまったく感じさせない気品と力強さがあり、それでいて笑顔が絶やさず、私たちに語ってくださいました。茂先生は説教録音をされていた頃、周囲の音が入らないよう、真夜中に家族にも知らせず、エアコンも切って録音されていたそうです。茂先生が地上におられると、このようなことを伝えると叱られそ

うですが、御言葉に仕える牧師の姿勢を教えられたように思います。今回、特に印象深かったのは、委子先生が茂先生を最高の牧師、最高の主人だったと語ってくださいましたことでした。先生を励ますつもりが、むしろ私たちが励まされ、襟を正される一時となりました。委子先生は教会の外壁塗装を始め、会堂の管理に関する大きな責任を担っておられます。先生の健康が支えられ、働きが守られるよう祈る必要があると思われました。静岡教会の切なる願いは御言葉を真っ直ぐに説き明かしてくださる牧師が一日も早く与えられることです。このことのために私たちも続けて祈っていききたいと思えます。

ヤスギ

さまざまな制約があるなか、短時間での訪問となりましたが、それぞれの教会の先生方が私たち委員を温かく迎え入れてくださったことに心より感謝申し上げます。コロナ禍が長く続き、リモート慣れしてしまっているだけに、顔と顔を合わせて交わりを持つことに大きな喜びを感じました。清水教会に戻り、宣教委員会の話し合いを行うなかで、「



今年はずいぶん国内宣教カンファレンスを対面形式で行いましょう」という意見が出てきました。まだまだ先の見えない状況が続きそうですが、主への信頼の思いを新たにしていって、一杯の働きをなしていきたいと思われれる二日間となりました。(2022国内宣教カンファレンスについて本誌の裏表紙に案内を記載していますのでご覧ください。多くの方々の参加をお待ちしております)。



委員の正田は家族にコロナ感染の疑いがあったため、リモートで参加(幸い陰性でした)



宣教委員会の会議が始まる前の一コマ。左から白井、浜田、中川、井口。



御霊と御力の現れによるもの

今回、私がかいたく誌の記事の依頼を受けた時にお伝えしたことは「コロナ禍の伝道で特別なことは何もしていません」ということでした。コロナ禍で様々なかたちでオンライン化が進んだことにより、教会の礼拝、交わり、信徒訓練、遠隔地の教会員に対するフォローアップなどの可能性が広がっていることは確かです。そして当然、福音の発信の仕方として、教会案内や特別伝道集会のチラシを何万枚もポストインするだけではなく、YouTube、SNSを用いた発信をされている教会もあるのではないのでしょうか。私自身は2020年に牧師職を引き継ぎ、コロナ禍において、教会の兄弟とともに教会形成、伝道に仕える恵みにあずかってきました。



あずかってきました。その中で、伝道を主導される御霊のお働きにより、救いに導かれる方々、バプテストに導かれる方々



が与えられ、今年度に入り継続して数名の方々がバプテストを受け教会に加えられる恵みにあずかっています。そのような中で、次のことを主から教えられてきました。一、福音を福音として語る伝道。私が神学生の時組織神学を担当してくださった先生の「福音にインパクトがあるか」という問いかけを思い出します。教会が、牧師が、兄弟がどれほど豊かな福音理解をもち、日常生活において福音の豊かさを実感し、福音の恵みに生かされているだろうかという問いかけられるのです。伝道の手法を考



日常生活において福音の豊かさを実感し、福音の恵みに生かされているだろうかという問いかけられるのです。伝道の手法を考



ともに自らに与えられた救いの恵みを確認するということが大切なことであると教えられます。二、教会形成と切り離されない伝道。伝道は人々をキリストに導くことです。しかし、その方が信仰告白に至ってゴールを迎えるわけではありません。私たちが福音、キリストにある救いをお伝えする時、私たちは目の前の方が教会に加わり、共に信仰共同体においてキリストに似た者とされていくという主の御心を意識しながら関与することが主の宣教の命令において教えられていることではないのでしょうか。三、御霊と御力の現れである伝道。私は、伝道を考える時に、コリント人への手紙第一の「御霊と御力の現れによる」という言葉を思い起こします。教会は、使命である伝道の働きにおいて、人々を招き、人々に福音を啓示し、人々に福音を受け入れるように導かれる御霊の働きに全面的に信頼しているだろうかという問いかけ

えることも大切でしょう。うが、伝道という時間を考える時にキリスト者自身が改めて救済論の学びを深め福音理解に努めるとともに自らに与えられた救いの恵みを確認するということが大切なことであると教えられます。二、教会形成と切り離されない伝道。伝道は人々をキリストに導くことです。しかし、その方が信仰告白に至ってゴールを迎えるわけではありません。私たちが福音、キリストにある救いをお伝えする時、私たちは目の前の方が教会に加わり、共に信仰共同体においてキリストに似た者とされていくという主の御心を意識しながら関与することが主の宣教の命令において教えられていることではないのでしょうか。三、御霊と御力の現れである伝道。私は、伝道を考える時に、コリント人への手紙第一の「御霊と御力の現れによる」という言葉を思い起こします。教会は、使命である伝道の働きにおいて、人々を招き、人々に福音を啓示し、人々に福音を受け入れるように導かれる御霊の働きに全面的に信頼しているだろうかという問いかけ



日本各地に遣わされてる諸教会の伝道のお働きへの祈りをこめて。

連載①

名古屋聖書バプテスト教会国内宣教師 上田 晃

イエス・キリストの恩寵の中で



上田晃・欣子夫婦

わたしはあなたを地の果てから連れ出し地の隅々から呼び出して言った。「あなたは、わたしのしもべ。わたしはあなたを選んで、退けなかった」と。

イザヤ書四二章九節

生い立ち(貫い子)

私は貫い子です。生後、百日目に京都に住の上田正次郎・くに夫婦に貰われました。3歳の時、くには病死。斎場の記憶があります。

養父正次郎(以下父と記す)は、京都の電話局(現NTT)に在籍。通信省の公務についていたようです。全国でもトップクラスの無線通信技手だったと来客から聞いたことがあります。父の勤務日、私は父の実家や故く

姻戚に当たる南禅寺最勝院にいました。断片的な記憶ですが、父は私を深い愛心で育んでくれました。添い寝をし昔話や本を読んでもくれました。私が「雷の音が怖い」と泣くと「ピカッと光った時、アキラのおへそがあれば大丈夫。音はどんなに大きくても怖くはないんだよ」と教えてくれました。以来、雷鳴の音は平気になりました。クリスマスには必ず、靴下に玩具やお菓子が入っていました。私は父が大好きで「お父ちゃん」と呼んで、甘えていました。休みの日には、テニス、野球、動植物園、遠くの遊園地、いつも一緒でした。楽しかった思い出が沢山あります。働きの者で、毎朝掃除をしていました。そして必ず、台所からカツオ節を削る音が聞こえてきます。冷奴とみそ汁、焼きのり。一生懸命、男手で私を育ててくれたのです。



父が勤務した電話局の建物

私の父、私の母が私を見捨てる時は、私が私を取り上げてくださいます。詩篇二七篇一〇節

ある日曜日の午後のこと、フナ釣りの帰り道。立派な髭のサーベル(洋刀のこと)をつけた巡査か憲兵かは知りませんが、「おい」と叫んで、父を呼び止めたのです。「貴様!この戦時下、子連れで何しとるか。職業、氏名は?」。高飛車な態度でした。私は怖くなって、父の服にしがみついております。父は、落ち着いた態度で、黙って身分証明書を見せました。すると相手は「失礼しました!」と言い、帽子の右横に手を挙げ、掌を見せて敬礼をしたのです。そして幾度も幾度も頭を下げ、帽子を脱いで謝罪している様子でした。「父は巡査より偉い人なのか?」と不思議な気分でした。とここで家の近くには、丸太町キリスト教会があり、うつつらですが、教会の庭で友達と遊んでいたような記憶があります。私がクリスチャンになつてから知ったことですが、京都元市長高山義三氏は、この教会の長老で、いつも下足係をしておられたと聞いたことがあります。家の近くに教会があるとは、何という摂理でしょう。

父、正次郎シンガポールで戦死

父は現地において通信隊の責任者として大切な任務に就いていたことなどを手紙で知らせてくれました。また、椰子の実で作ったお椀など、現地の珍しい品を送ってくれました。私は大切にそのお椀を使っていました。私は父が帰って来る日を心待ちにしていました。しかし、翌年12月24日のクリスマススイブの夜、父は死亡したのです。何と言う事でしょう。クリスマススイブの夜7時に息を引いたのです。同年11月21日に長女和子が生まれましたが、残念ながら父は娘の顔を見ることはなかったのです。



父 正次郎

(次号に続く)